

ともにつむぎだす ～希望の中で～

「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。」—エフェソの信徒への手紙 2章17節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川県

2023年8月25日
第143号



「マルトリから子どもたちを守ろう」

ドレーパー記念幼稚園 園長
佐竹 和平

子ども達と向き合い、子ども達と共に生活し、共に生きている、神奈川県に所属する各施設でお働きの皆さんへのメッセージ。近年、当園にも児童相談所からの問い合わせが増えていることもあり、児童虐待に関するのメッセージを通じて、皆さんの目の前にいる子どもの利益に供することが出来れば幸いです。

「マルトリ」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。世界的には児童虐待については Maltreatment (マルトリートメント) なる言葉で表現されているようです。Malは不適切な、悪い、treatmentは

◆ 聖句 ◆

子供たちを抱き上げ、
手を置いて祝福された。

マルコによる福音書
10章16節

扱いという意味で、「不適切な養育」「避けるべき子育て」と訳されます。略して「マルトリ」。今までの考え方は「虐待」とは言い切れないが、大人から子どもに対するよくない関りをマルトリといいます。

「言うことを聞かないのでお尻や手をたたく」「兄弟や他の子と比べる」「子どもに一人でスマホやタブレットを使わせる」「子どもの前で両親が喧嘩をする」「お風呂からでてきた親が裸でウロウロする」など、身体的のみならず、精神的、情緒的に子どもに良くない影響を与えるような大人の行為として多岐にわたります。

このマルトリを幼児期に受けると脳への悪影響が出て、愛着障害や発達遅れ、成人後には病気の発病率の上昇などのデータもあるようです。マルトリは家庭だけで起こるわけではありません。小学校に通う子どもたちから学校の先生が怖いとの報告を受けます。自分ではなくクラスの他の生徒をしかる姿、怒る姿に恐怖を覚えると、これもマルトリ。私たちの保育の現場でも十分にあることです。子どもの尊厳を無視したような言葉かけはしてはいませんか。子どもに恐怖心を与えることで指導しやすそうとしていませんか。

私達自身がこのようなマルトリをしないように気をつけねばなりません。また、家庭でのマルトリを防ぐ方法として親、母親の孤独解消、相談相手、話し相手になる人がいることも重要とされています。対象になる方が施設におられるようなら、うまく保育者が関わることで、保護者の孤独を解消し、目の前にいる子ども達のことを周りにいる大人が救えたら良いかと思いません。幼児教育、保育の現場にいる我々の目の前にいる、その子がマルトリの被害にあわないようにするのは、貴方の大切な役目であるとお伝えします。多くの方々に「マルトリ」を学んで欲しいと願っています。まずはご自身でマルトリ(マルトリートメント)を検索することから始めましょう。



保護者への発信

保護者との

連携プレー

相模白ゆり幼稚園

園長 山崎史朗

保護者の方々には幼稚園の行事、運営面においてたくさんサポートを頂いています。コロナもひと段落ついた昨今、各種の委員会活動が豊かに始動し始めました。ご紹介します。

一. バザー委員会、運動会委員会
名前の通り行事をサポートして頂きます。バザーでは、古園服そして園グッズを製作して販売してもらいます。園児向けにはゲーム他お楽しみコーナーを計画し、子供たちはバザーの日を楽しみにしています。運動会委員さんには、ご褒美のプレゼントを準備してもらいます。運動会当日は、朝早くから荷物の運び出し、テントの設置まで大活躍の日となります。

二. 図書委員

図書室の絵本を園児たちは、木曜日に

借りて、水曜日に返却します。その管理を全てお願いしています。子供たちは、絵本が大好きです。

三. クラス委員

夏のプール、お芋ほり、クリスマス祝いの補助をお願いしています。年度初めのクラスの親睦会では、楽しい企画で盛り上げてくださいました。

四. 保護者会の本部役員

各委員会と幼稚園との連携、総会の進行を務めてくださっています。会の名称について、従来は「母の会」と呼んでいましたが、昨年の総会で「虹の会」に改称することができました。

聖書の中にも虹は出てきます。そうですね、子供たちもよく知っているノアの箱舟の話の思い出します。「虹の会」は、幼稚園と子供たちを繋ぐ大きな橋のように、今日も空に掛かって、たくさん役割りを果たしてください。



負の遺産

松蔭大学 子ども学科准教授

中山幼稚園 野末晃秀

コロナ禍が私たちに残した負の遺産を三つ述べよと問われたとき、「コミュニケーションの欠如」「貴重な時間と思い出の喪失」そして「思考の停止」と私なら述べるだろう。前述した二つは言うまでもないことだが、「思考の停止」こそが最も深刻な部分なのではないかと私は思う。

例えば「なぜマスクをするのか」との質問に、多くの場合、実際のその効能よりも、「他の人がみんな着用しているから」という、自分だけしていないとオカシイ、あるいはじろじろみられてしまう、という理由に帰結する場合が多い。これこそが思考の停止であるし、その結果、屋外の広い田畑を耕運機で耕す方も、一人で自動車を運転するドライバーも白いマスクを着用したままになっってしまう。

こう書くと私がすべて正しく、マスクをしている方を卑下するような上から目線な発言に聞こえてしまうかもしれないが、趣旨はそうではな

い。自分はどうか判断し、どう行動するのかという観点が欠落してしまうことを指摘したいのである。

ここで白状すると、私は今まで一度もワクチン接種していないし、今年一月一日にすべてのマスクをゴミ箱に捨て、仕事も、移動も、買い物も、コンサートもすべてマスクなしで生活した。そしてそれは「子どもたちにしつかりと笑顔でコミュニケーションすること、子どもの脳にたくさん酸素を入れて活性化させるべきだ。そのためには大人（保育者）が率先してマスクを外すべきである」という自分なりのルールを決め、それを守ろうと決めたからである。

そう考えるとコロナ禍が残したものは、私たちの価値観や生き方を写しだす「鏡」なのではないかとさえ思ってしまうのだ。



それは奇跡だった

ハリス記念鎌倉幼稚園

園長 森研四郎

園発信の忘れられないメールがある。「今、鎌倉保健所から全員陰性の報告がありました。十二月四日まで自粛してお過ごしください」(二〇二〇年十一月二七日発信)。その時、「全員陰性は奇跡です」とも言われ喜々とした。全園児・教職員が濃厚接触者との連絡から、一転して全員陰性という結果を受ける迄の間、コロナへの不安と恐れが渦巻いていた。一部保護者、近隣の動揺は凄まじく、理不尽な不満がよせられ、電話対応に追われる数日であった。

全体的に手指消毒と三密を避けるという発信が目立つが、子どもの成長に密は不可欠である。それ故、予防を徹底した上で、子どもの活動は中止せずできる限り継続した。登園に対する保護者判断は尊重すると共に、保護者が加わる活動は人数制限をおこなった。真冬でも暖房して窓を開けるといふ様だ。外部との活動は、ほぼ中止となった。

コロナ禍当初、「幼稚園に行きたいよ」と、園児からハガキが届いた。それにつき動かされ、初めてズ

ームによる子どもとの接触を試みた。担任が名前を呼ぶと、返事がかえってくる。「ひとりひとりの名を呼ぶ」ことは保護者と子どもたちには、覚えられている実感を与えられたとのこと。一方、感染防止は思わぬ課題をもたらししている。子どもの身体的発達への危惧、親と子の孤立化が進み、主張が強くなり、言葉遣いの丁寧さが薄れた感がある。今も続く園の雰囲気の中で、園と保護者との協力が求められる。課題を前に気持ち萎えるが、その時こそ、園創立の理念や目的に立ち、思いを新たにすることが大切だと思う。



子どもと一緒に時間

福音幼稚園

園長 宮澤 恵樹

今回のテーマが「保護者への発信」とあり、直ぐに思い浮かんだのが幼稚園の説明会でした。私は必ず説明会で「幼児期に少しでも長く親子でいる時間をもって欲しい」と伝えていきます。どの家庭でも働き方が柔軟になってきています。受け入れてくれる幼稚園、保育園が充実し、預かり保育によって長時間子どもを預けることが出来ている現在。共働き家庭でも、子どもを幼稚園に通わせたい保護者のニーズに応えるなど利便性が高いとされる子育て支援制度。それに伴い幼稚園における預かり保育の充実を行政は促進しています。保護者にとって園を選ぶ基準がどのようなものなのか、「給食がある」「長く預かってくれる」「自然豊か」等々ある中で、園における教育方針を理解していただき、「子どもと一緒に過ごす時間を少しでも多く持つてください、そのことによつて目には見えない親子の絆」が深まります。と私は言っています。働くことが悪い方でもないし、働かざるを得ない方もいる。それぞれ異なった状況

の中でも、まげてはいけない大切なことを、保護者に発信し続けていかななくてはいけないと思うのです。

親からの愛情を受け止めている子は、社会性や自立心が育まれ、親からの愛情を確信している子は、自己肯定感が高まり、何事にも自信をもつて取り組むことができるようになる。親子のスキンシップによつて、心が満たされ、自尊心や人への信頼感が増す。子どもと過ごす今しかない時間、限りがある中で子ども心の成長を考え伝えていきたいと思っています。



役員会報告

書記 酒井 大志

◆神奈川部会総会

総会は四月二十日(木)午後三時より清水ヶ丘教会ミッションホールにて行われ、二〇二二年度事業報告ならびに決算が承認され、二〇二三年度計画案ならびに予算が承認されました。出席二四園(参加者三五名・陪席二名)委任状・書面評決十三園

◆役員会

五月十五日(月)、六月十九日(月)、七月二十五日(火)に清水ヶ丘教会にて開催されました。役員会にて、四月二十日(木)に開催された二〇二二年度総会議事録を承認いたしました。役員が改選されました。

●役員紹介

部会長

清水臣先生・戸塚ルーテル教会附属幼稚園

副部会長

鈴木裕美先生・(認)高座みどり幼稚園

副部会長

中島聡先生・白百合光の子幼稚園

会計

岡野きよみ先生・(認)捜真幼稚園

加部公子先生・嶋沼めぐみルーテル幼稚園

書記

酒井大志先生・野毛山幼稚園

島田美緒先生・浅野記念御濠端幼稚園

監事

佐竹和平先生・ドレーパー記念幼稚園

宮川周子先生・横浜本牧教会附属早苗幼稚園

プロジェクト委員会

鈴木直江先生・(認)関東学院六浦こども園

島義信先生・(認)宮の台幼稚園



新任歓迎会

◆新任歓迎会

四月二十六日(水)野毛山幼稚園野毛山キリストの教会礼拝堂にて行なわれました。礼拝では奈良昌人牧師(野毛山のキリストの教会より説教をいただき、礼拝の後、山田雅井先生私塾まきばから新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。二三園・六九名参加。

◆新任保育者研修会

六月二十一日(水)捜真幼稚園にて山下久美先生(東洋英和女学院大学教授)に「子どもと自然のかかわり」をテーマに研修をしていただきました。二三園・四八名参加。

◆第一回講演会

六月二十八日(水)田園江田幼稚園にて、小山望先生(田園調布学園大学教授より「インクルーシブ保育の実践」というテーマでご講演いただきました。二四園・七三名参加。

◆夏期講習会

八月二日(火)関東学院大学横浜関内キャンパスにて開催されます。久しぶりの対面での夏期講習会は、全体礼拝のち、永年勤続表彰、久米小百合さんのコンサートを予定しています。

◆中堅保育者研修会

九月六日(水)戸塚ルーテル教会附属幼稚園にて行われます。中堅保育者同士、よい情報交換の場となればと思っています。

◆第二回講演会

十一月八日(水)清水ヶ丘教会にてジャーマン・ルーシーさんよりご講演いただきます。

◆クリスマス礼拝・十二月六日(水)

清水ヶ丘教会にて予定しています。

◆設置者・園長・主任研修会

十二月二六日(火)内容については決まり次第ご連絡いたします。

◆保育環境研修会

一月十日(水)内容については決まり次第ご連絡いたします。

編集後記

新型コロナウイルス感染症も5類感染症に移行しました。増加傾向ではありますが、各施設少しずつ本来の生活を取り戻しつつあるのではないのでしょうか。今回の「部会だより」はコロナ禍での“保護者への発信”ということでお言葉を頂きました。今後の保育にもつながれたらと思います。お忙しい中ご協力を頂きありがとうございました。



◇発行日 2023年8月25日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
和泉保育園/平本麻美
七里が浜幼稚園/高橋栄

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 和泉保育園